

自・情障学級の入級と退級のチェックポイント

- ① 年度当初に、複数の先生で確認をし、チェックが入らなかった項目は管理職と共有し、校内体制で整えていきましょう。
- ② 入級や退級を検討する際に、関係者でチェックをし、校内の体制を確認しましょう。



入 級

チェック	確認のポイント
入級前	通常の学級の指導において、授業のユニバーサルデザイン化等の工夫をしている。
	学年会等で具体的な事例を継続して検討し、具体的な支援に生かしている。
	外部の専門家に授業参観や検査等を依頼し、特性に応じた支援の改善を行っている。
	幼少期の様子や家庭環境等を保護者に伺い、実態把握に反映している。
	簡易版の「個別の教育支援計画・指導計画」を作成し、支援に生かしている。
	保護者を交えた支援会議を継続して開催している。
入級検討	入級に当たる根拠の検討をしている（諸検査、行動観察）。
	学びの場の検討の際、教育的ニーズ、保護者・本人や専門家の意見を踏まえている。
	学びの場の検討の際、保護者・本人との合意形成を行っている。
入級	保護者・本人と相談して「個別の教育支援計画・指導計画」を作成している。
	自・情障学級での目標や有効な支援について、検討・実践・評価を積み重ねている。
	自・情障学級での指導を終了できそうな時期について、見通しを立てている。

退級・継続

チェック	確認のポイント
通常の学級との連携	交流及び共同学習時、自・情障学級担任が参観し、支援方法等の助言をしている。
	本人と相談しながら通常の学級と、計画的に交流及び共同学習を積み重ねている。
	通常の学級が互いの違いやよさを認め合える学級になっている。
	本人が、通常の学級での学習活動（教科学習も含む）に前向きに参加できている。
	本人が、通常の学級で安心して生活をし、持てる力を十分に発揮している。
	保護者が、通常の学級で学ぶ子どもの姿を見て安心している。
退級・継続	入級しているすべての子どもの翌年度の継続利用について関係者で検討している。
	入級を継続している子どもの「個別の教育支援計画・指導計画」を見直している。
	校内教育支援委員会での検討を踏まえ、学校長が学びの場の変更を決定している。
	退級後も「個別の教育支援計画・指導計画」を活用し、通常の学級で支援を工夫している。
	退級後も定期的に支援会議等を開催し、状況の共有や支援の在り方を検討している。

